

令和3年度北方型住宅技術講習会に寄せられた質問及び回答

No.	質問	回答
1	壁面の太陽光発電は実際眩しいものなのでしょうか？	<p>太陽光パネルに当たった日射が反射し、反射光が周囲の建物内に差し込み、眩しさのためにトラブルになった事例が報告されています。</p> <p>Low-Eガラスの反射光よりは眩しくありませんが、トラブル回避のためには、反射を抑えた太陽光パネルを設置する必要があります。</p>
2	ZEH Orientedの定義に多雪地域は含まれないのですか？	<p>ZEHの定義によると、ZEH Orientedの対象地域には多雪地域（建築基準法で規定する垂直積雪量が100cm以上に該当する地域）が含まれていません※。</p> <p>なお、ZEHに関する補助事業の利用を検討されていて、補助対象となる住宅の要件を確認したい場合には、公募要領に記載の問合せ先にご連絡の上、確認ください。</p> <p>※更なるZEHの普及促進に向けた今後の検討の方向性等について、ZEHロードマップフォローアップ委員会、 https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/general/pdf/20210331.pdf</p>
3	なぜカギカッコ付ZEHなのでしょうか。ZEHだと思います。1, 2地域では北方型ではZEH達成できないネガティブ情報なのですか？	<p>特に断りがない場合、ZEHはNearly ZEH、ZEH Orientedも含めた広い概念を表すものとし、Nearly ZEH、ZEH Orientedを含めず狭義の「一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスの住宅」の意味で用いる場合には『ZEH』と『』で囲って表現することになっております※。</p> <p>また、発表スライド12、13枚目に1、2地域における『ZEH』達成に関する検討結果をお示したように、北方型住宅2020以上の省エネルギー性能を有する住宅（UA=0.34W/(㎡・K)以下、BEI=0.8以下）では、太陽光発電を設置することにより、『ZEH』を達成することができます。</p> <p>しかし、これは設計時の評価でありますので、運用時に一次エネルギー消費量が正味ゼロまたはマイナスを達成できるかについては、住まい方や気象条件等の影響を受けます。</p> <p>※ZEHの定義（改訂版）＜戸建住宅＞、ZEHロードマップフォローアップ委員会、 https://www.enecho.meti.go.jp/category/saving_and_new/saving/assets/pdf/general/housing/zeh_definition_kodate.pdf</p>

令和3年度北方型住宅技術講習会に寄せられた質問及び回答

No.	質問	回答
4	<p>BIS、BIS-Eが北方型2020の必須になると思われますが、資格取得へ向け北海道で行っている取り組み等がありますか？</p>	<p>BIS資格の試験や更新講習会は（一社）北海道建築技術協会で開催していただいておりますが、令和3年度は更新講習会は札幌市のほか釧路市や北見市で開催、試験についても札幌市のほか中標津町でも開催しています。</p> <p>道では今後も協会と連携し、多くの方が資格を取得できるよう取り組んでまいりますので、ご要望などがあればお知らせください。</p>
5	<p>北海道の住宅、特に高断熱仕様の住宅は壁に付加断熱をするのが一般的ですが、壁面に太陽光発電設備を取付けるに当たり、施工上の注意点、問題点はありませんでしょうか？</p> <p>かなりの重量があると思うので、経年で脱落する様な不安があります。</p>	<p>壁面に太陽光パネルを設置するに当たっては、地震等による外力が加わった時に、太陽光パネルを落下させない施工が必要です。</p> <p>また、外装材をボルトで貫通する場合には、貫通部の防水処理も必要です。経年変化については、施工事例が少ないため、今後検討が必要と考えております。</p>
6	<p>室内において冬期の窓からの太陽エネルギーは暖かくて心地よいですが、高断熱で高効率設備や創エネ導入の仕様が同じだとして、一番長く過ごす居室の窓の向き（建物の向き）は真南の方が南西や南東向きよりも省エネルギー効果がありますか？</p>	<p>冬期の鉛直面日射量は、真南で最も大きくなり、南西や南東は真南の約8割程度です。真南に窓を設置した方が日射熱取得は大きくなるため、暖房エネルギーの削減効果が大きいと言えますが、南西や南東であっても効果は期待できます。</p> <p>一方で、夏期は日射を取り入れすぎると室温がオーバーヒートする恐れがあり、庇などによる日射遮蔽を行うことが重要です。このため、省エネ性と快適性を両立させるためには、冬期のみならず夏期も考慮した開口部まわりの計画が必要です。</p>